

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月22日

事業所名 仙台市大野田たんぽぽホーム

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・活動に合わせて広さを工夫している。 ・パーティションを使い区切って使用している。 	
	② 職員の配置数は適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・前日打ち合わせをする等、職員減でも行えるように工夫した。 ・職員の足りない日は他のクラスにヘルプを要請し配置している（複数）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単独通園開始時は対象児を限定する、職員が十分でない日は職員数に応じた活動内容への変更するなど工夫しながら、日々安全安心を工夫できるようにしていく。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体に合わせた構造化と個別の配慮（構造化）も取り入れた。 ・遊びの空間をパーティション等を用いて分かりやすく構造化している。 ・個々に合わせた構造化を目指して支度等を行った。 ・写真やマークを使用しお支度の動線を分かりやすく示している。 ・マークや写真、足形など視覚的に分かるよう伝えている。 ・お子さんの様子に合わせて提示方法などを都度変更した。また個別にじっくり遊べたりできる場を作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由遊びやその他の場面でも構造化の視点を持ち、更に良い環境を工夫していきたい。 ・クラスに必要な環境を話し合い、当日の出席人数に合わせて環境設定できるようにプランを複数考えておく。 ・年度当初に構造化の意味を保護者の方々と共にしておくようにする。 ・他のホームと交流し構造化の工夫を学び高め合っていく。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・日々安全と清潔のチェックをしていけた・適宜消毒している。 ・寒さや転倒時の危険回避のためクッションマットやカーペットを使用している。 ・消毒徹底。 ・パーティション等で仕切り個の遊びに集中できる時間を設けている。 	
適切な 支援の 提供	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・回覧や全体会議で周知、話し合いされた。 ・日々振り返り話し合う時間を設けている。 	
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・寒さ対策や登園回数など、すぐに対応した。 	
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに記載されオープンにされている。 	
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・園長先生を中心にタイムリーに行っている。 ・希望すると参加できる。 ・心理、OTから等、様々な視点の学びの機会があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラダーごとのグループSVなど、発言しながら課題を共有し実践に活かせる研修を充実させる。
	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントと保護者ニーズ分析、どちらも欠かさず行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたアセスメントツールを用い、多職種が連携し多面的に分析作成することを定着させていきたい。
⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・たんぽぽホーム独自のアセスメントシートを使用している。 		
⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に比べて声掛け等、より具体的な支援内容を提案できていた。 		
⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・クラス内でいつも共有し、沿った支援ができた。 ・集団場面だけでなく個別活動も取り入れている（複数）。 		
⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・前日にデイリープログラムを確認し、改善が必要な場合は職員で意見を出し合っている。 ・事前に必ず打ち合わせをしている。 ・クラス会議を行っている。 		
⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・年案をベースにクラス内で話し合いを持てた。 ・研修で学んだことや他施設を参考にしている（複数）。 		
⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・年案をベースにクラス内で話し合いを持てた。 		
⑰ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・クラス内で漏れの無いようにクラスノートで共有し記録した。 ・重複しないように特記等、内容を全体で統一したり、時間の目安を作りメリハリができたと思う。 ・前日に打ち合わせ、当日は変更点等を確認。常に予想される個別の対応を事前に確認し進めてきた。 ・前日に確認する時間を設けることで改善や変更点を話し合えた。 		

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・クラス内で漏れの無いようにクラスノートで共有し記録した。	・フォーマットを作成し振り返りを効率的に行えるようにする。 ・活動のねらいと評価等を分かり易く記載できるようにしていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・クラスノートを作成し、聞き取ったことを共有し振り返りができるようにしている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			・支援計画見直し話し合いがタイムリーにできるよう児発管は早めに職員に知らせるようにする。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			・地域相談員を中心に、ベアプロ、初期支援プログラム、保健センターでの健診事後教室への参画など、拡充していきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			コロナ禍で同行や同席の困難な場合は保護者からの聞き取りで支援内容を確認していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		・コロナ禍で直接は難しいが保護者を介して連携できるようにしている。	・病院のリハ計画などの共有ができるとより療育内容の充実につながると思う。コロナ禍で同行の困難な場合は保護者からの聞き取りで支援内容を確認していく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・引継ぎや地域相談を軸とした関わりをしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	-		・該当なし。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・研修を受けた。	・センター合同人材育成プログラムを検討している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	△		・午後、隣接する保育園児と担任保育士の方々に施設を開放しホームの遊びを体験してもらった。 ・コロナ感染対策のため難しかった	・次年度は隣接保育園との交流を再開させたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・連絡ノートや送迎時、必要に応じて療育時間後にも伝え合う。 ・自由遊び時間等、様子を聞いている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○			・勉強会資料は常にブラッシュアップさせていく。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・日々の聞き取りやノート等を活用し丁寧に対応するようにしている。 ・その日の担当者が聞き取ることにしている。	・自ら発信のない保護者の方にも意識的に関りニーズを共有できるようにしていきたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・ミーティングやコーヒータムを利用し保護者同士の交流を図れるようにした。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・クラスの要諦表に登園日を色分けするなど分かりやすく示している。 ・行事等は別紙にして配布している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			

非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか	△	・対象児がいる時は指示書をもっている	
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・虐待防止委員会が中心となって防止に努める。
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○	・部屋の鍵についてはお母さん方に説明している。 ・チャイルドシートの利用など安全上やむを得ない状況が発生したときはその都度追記している。	

※この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。